

文化財センター通信

【かぎぐるま】

風車

第 22 号

平成18年3月31日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター



調査区(西造出)と和歌山平野<東から>

当センターでは、平成16年9月から平成17年3月まで、県立紀伊風土記の丘による整備事業の支援業務として、特別史跡岩橋千塚古墳群の第3次調査を実施しました。ここでは、調査のメインとなった大日山35号墳の調査成果を紹介します。

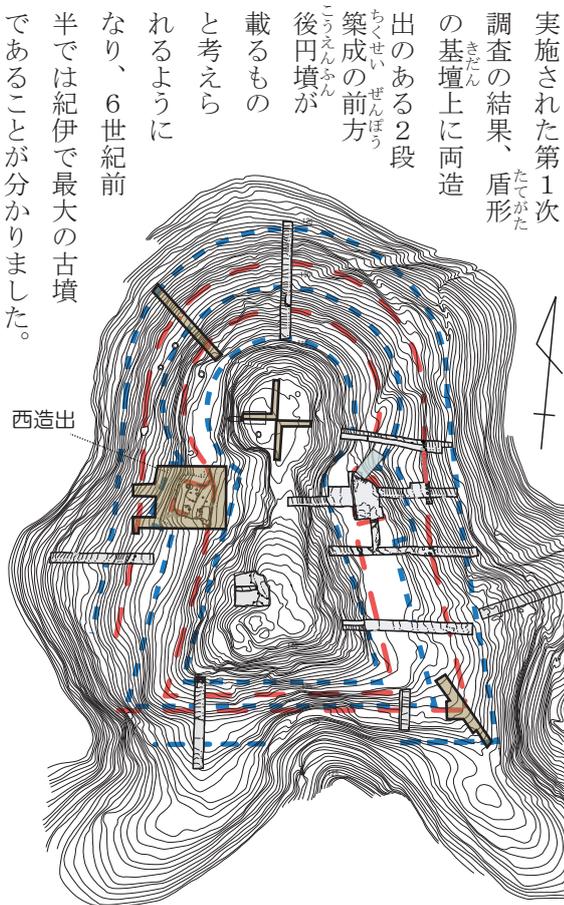
特別史跡 岩橋千塚古墳群 大日山35号墳 第3次発掘調査の概要

大日山35号墳の西造出で
形象埴輪群像を確認!



大日山35号墳について

岩橋千塚古墳群は和歌山市東部の岩橋山塊周辺に広がる古墳群で、約430基が集中する範囲が「特別史跡」に指定されています。大日山35号墳はその盟主墳の一つで、紀氏の首長墓と推定される古墳です。2年前に実施された第1次調査の結果、盾形の基壇上に両造出のある2段築成の前方後円墳が載るものと考えられるようになり、6世紀前半では紀伊で最大の古墳であることが分かりました。



大日山35号墳 調査区配置図

— 第22号の主な内容 —

1. 特別史跡 岩橋千塚古墳群
大日山35号墳第3次発掘調査の概要
2. 【コラム 考古学の散歩道】
「建造物の保存修理と発掘調査」
3. 平成17年度
埋蔵文化財課の普及活動

* 現地説明会資料を転載（一部改変）

西造出の調査結果

今年度の調査では、西造出のほか、後円部・前方部・墳頂部の調査を実施しました。西造出は前方後円墳のくびれ部に張り出した舞台状の場所で、上面には四方を円筒埴輪に囲まれた南北6×8m、東西7m、面積43㎡ほどの空間が設けられています。西造出の円筒埴輪は、東列29本（調査区全体では38本）、北列14本、南列17本、西列7本が残存しています。円筒埴輪列の中には、東列で11本に一本、北・南・西列では基本的に8本に1本の割合で朝顔形埴輪が含まれていました。また、埴輪の出



西造出 全景 <北から>

土傾向から、2本の朝顔形埴輪のほぼ中間の円筒埴輪上に、蓋形埴輪が載せられていた可能性が考えられます。

造出内部はいくつかのゾーンに分できます。造出北半中央には須恵器の大甕と壺が据えられ、東に空間を開けています。周辺からは高坏の破片等が出土しており、土器を用いた飲食物供献儀礼が行われていたものと考えられます。造出南半には形象埴輪群が配置されており、造出西側からも家形埴輪等の形象埴輪の破片が出土しています。形象埴輪は人物埴輪（武人頭部1、女性頭部1、



武人埴輪の頭部 <北から>

刺青をした人物頭部2、人物体部1、腕12本）のほか、馬2頭、鞍・胡篋（矢を入れる道具）、家等が確認できます。武人埴輪の頭部は高さが22cmあり、衝角付冑にみられる表現の痕跡を残す眉庇付冑をかぶっています。この武人の下半部と考えられる草摺の載る台のほか、馬2頭と家、その他の台円筒など計11箇所原位

置を保つ埴輪・据付穴が確認されており、埴輪の群像構成が判明するものとして整理の進展が待たれます。また、埴輪の周辺に須恵器・土師器の坏・高坏・壺を配している様相が窺えることも注目に値するといえるでしょう。

造出以外の調査結果

造出以外では、後円部と前方部で円筒埴輪列と基壇裾の傾斜変換を明示する掘り込みを確認しました。前方部前面で基壇の裾が確認されたことにより、大日山35号墳は全長約83m、基壇を含めた総長102mの古墳と考えられるようになりました。

墳頂部の調査では、家形埴輪等の形象埴輪の存在は確認されませんでした。須恵器の破片が若干出土した



現地説明会風景（平成17年12月17日）

ほか、円筒埴輪片の出土傾向から、円筒埴輪列がまわることが推測できます。

現地説明会

12月17日（土）には、調査の一端を広く一般の方々に見ていただくために、現地説明会を開催しました。当日は小雪舞うあいにくの天候にもかかわらず多くの見学者に来ていただき、関心を持っていてる人が多くいるということを実感しました。今後は、出土した埴輪の整理作業を通じて形象埴輪群像の解明が進むものと期待されます。

（丹野 拓）

建造物の保存修理と発掘調査

当センターは、埋蔵文化財の発掘調査と建造物の保存修理を行っている全国唯一の組織です。発掘調査と建造物修理、文化財を守るという目的は同じですが、読者の皆様にはこの二つは全く関係がないように思われることでしょうか。しかし、現在行われている掘立柱建物の発掘方法が文化財建造物を修理しているときに開発されました。このことはあまり知られていないので、紹介してみたいと思います。

文化財建造物の保存修理では、すべての部材を取りほどいてしまう解体修理の場合などには、昔の修理や改造で残された痕跡（使われていないほぞ穴、物が当たって押しつけられた痕、物を取り付けた釘穴など）を丹念に調べ、痕跡の前後関係を頼りに、増改築など建物の変遷を明らかにし、当初または建物が一番よい時期の姿に復原して組み上げます。

このような現在行われている建物の調査方法は、昭和9年から開始された法隆寺昭和大修理のときに完成されました。

文化財建造物の保存修理で、建物を解体した後地下の発掘調査を行うようになったのも法隆寺昭和大修理からでした。このときの発掘調査で、現在の東院（夢殿を中心とする地域）の地下からは聖徳太子の住宅であった斑鳩宮らしい建築群の掘立柱の跡が発掘され、古代宮殿遺跡の一部が解明されるなどの成果がありました。

掘立柱は建てる前に柱より広く深い穴を掘り、そこに柱を立てて埋め戻します。そのため、土の状態を観察すれば、柱を立てるための穴、その中の柱の腐った跡などを発見することができます。礎石や基壇の残り具合が頼りであったそれまでの遺構検出が、埋土を区別して取り除き、土の色の変化や地山と埋め戻し土の肌分かれをうまく利用して検出することが可能となりました。この発掘方法は、法隆寺昭和大修理のときに開発されました。礎石の抜き取った跡や基壇の掘込地形（表土を若干掘りくぼめる地形）、版築（粘土と砂を交互に層状に突き固める工法）の痕跡も同じ方法によって検出することができます。この方法で礎石も基壇も残されていなかった若草伽藍の基壇の跡が確認され、法隆寺再建非再建論争の幕が一応閉じたことは有名な話です。

この発掘方法を開発したのは、当時保存工事事務所で建物の修理と調査を指揮していた浅野清さんです。建物に残された痕跡から当初の姿を復原する方法を確立し、改造されていた法隆寺の建物を復原して古代建築史の基礎を築いた業績はよく知られています。しかしこの他にも掘立柱建物の発掘方法を開発した業績ももっと評価してよいのではないのでしょうか。

なぜなら、このときに開発された発掘方法は、土が排除されていない限り遺跡の究明が可能だという確信を与え、平城宮や難波宮などの宮殿遺跡、平城京などの都城遺跡や縄文時代以後の竪穴住居など昭和30年代以降急激に発展した建物遺跡の発掘調査への貴重な備えとなったからです。

（寺本就一）



掘立柱建物の発掘調査例
（紀の川市粟島遺跡＜平安時代＞）

柱を建てるための穴

柱の痕跡（柱の腐った跡）

（白い線は調査時にわかりやすくするために引いたもの）



山田寺（桜井市）の発掘調査現場を見学する浅野さん
（写真右側の横向きの人）
＜寺本撮影＞

平成17年度 埋蔵文化財課の普及活動

- ☆ 県指定史跡水軒堤防発掘調査 (調査担当 仲原)
 - ・現地説明会 5月28日：約150名参加 <「現地説明会資料」作成>
 - ・シンポジウム『県指定史跡水軒堤防を考える－築造年代と今日の意義－』開催
7月9日：約70名参加
 - ・県立和歌山工業高等学校土木科見学会
5月25日：3年生約40名、5月26日：2年生約40名、5月30日：1年生約40名

- ☆ 太田・黒田遺跡発掘調査 (調査担当 仲原・横矢)
 - ・第1回現地公開 10月8日：67名参加 <「現地公開資料」作成>
 - ・第2回現地説明会 12月10日：86名参加 <「現地説明会資料」作成>
 - ・県立向陽高等学校文化科学科見学会 9月27日：1年生約40名・2年生約40名
 - ・和歌山大学教育学部大学院生見学会 11月24日：約10名

- ☆ 旧吉備中学校校庭遺跡 (調査担当 佐伯・川崎)
 - ・現地説明会 12月3日：42名参加 <「現地説明会資料」作成>
 - ・学校見学会(総合学習)
 - 町立藤並小学校 11月9日：86名
 - 町立田殿小学校 11月14日：36名
 - 町立御霊小学校 11月15日：45名
 - ・県立有田中央高等学校日本史B専攻生見学会 11月25日：21名
 - ・和歌山県高等学校社会科研究会Cブロック(有田郡)見学会 12月6日：14名

- ☆ 特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査 (調査担当 丹野)
 - ・現地説明会 12月17日：395名参加 <「現地説明会資料」作成>
 - ・和歌山大学教育学部大学院生見学会 12月3日：約10名
 - ・関西ツーリスト見学 2月4日：約15名

- ☆ 吉備町子供探検隊 (担当 村田)
 - ・吉備町教育委員会主催 6月24日：20名 海南整理事務所で出土遺物の整理作業体験

- ☆ 発掘調査速報展「紀州の歩み」(於)県立風土記の丘資料館(風土記の丘と共催)
 - ・7月2日～8月21日開催 <「速報展パンフレット」作成>
 - ・速報展関連講座 7月16日：渋谷高秀「徳蔵地区遺跡の発掘調査でわかったこと」
寺本就一「修理でわかった中筋家の歴史」

- ☆ FUJITSUファミリー会和歌山地区セミナー (講演 仲原)
 - ・9月13日：約50名参加 (題目「発掘調査と出土品を通して知る紀州の歴史」)

- ☆ ホームページの開設 (担当 佐々木)



風車 第22号

平成18年3月31日 発行
(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel: 073 (433) 3843

Fax: 073 (425) 4595

e-mail: maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp

《編集後記》 今年度最後の風車
となりました。来年度は今以上に多くの情報を皆様にお伝えすべく頑張りたいと思っていますので、期待して待っていて下さい。
(仲原)



県立向陽高等学校見学会風景
(太田・黒田遺跡にて)